



尼いもへのアプローチ
学生と教員で関わる「尼いも」



『「尼いも」と園田学園女子大学』と題して、2016年11月10日（木）まちづくり解剖学が行われました。まちづくり解剖学では、教職員・学生・自治体職員・地域住民のみならず、地域社会の課題を共有し、発表や意見交換の場を提供しています。

今回のテーマは水害で栽培が途絶え、絶滅した「尼いも」。2003年に市民団体「尼いもクラブ」によって復活してから、農家や市民ボランティアの手により市内に浸透していきました。

本学でも尼いもに注目し、本年度からふたつのプロジェクトが始まりました。それらの取り組みを振り返りつつ、これからのアプローチについて考えました。

ひとつ目は尼いもクラブの綱本武雄氏を非常勤講師としてお招きした「つながりプロジェクト」。地域のイベントを見学したり、10月23日に行われた尼芋奉納祭（於：貴布禰神社）でブース出展したりしました。クラスの学生は「尼いも」を通じて地域を知り、地域の人と関わる機会を増やしています。

ふたつ目は「製麺による尼崎の伝統野菜「尼いも」の新規用途開発」という本学食物栄養学科渡辺敏郎教授のゼミ活動で、尼いもを使った麺を作る研究が行われました。必要な菌の採取を貴布禰神社で行い、「KIFUNE72」と名付けた麹菌と尼いもを使い「尼いもの甘酒」が出来上がりました。初めての試みで完成には至りませんでした。尼いもの新たな商品化を目指し、今後も研究を続けていきます。

この他、一昨年度から引き続いて活動している取り組みとして、本学の学生地域連携推進委員会つなG i r lも尼芋奉納祭にブース出展しています。昨年度は来場者に尼いもキャラクターを描いてもらい投票で1位を決定しました。本年度はキャラクターの名前を募集、尼いもに関係の深い方々と話し合い、「尼のいも子」と命名しました。2年続けて当日に表彰式を行いました。

「尼のいも子」の活躍も含めて、「尼いも」の今後の発展に期待し、本学でも引き続き貢献できればと考えております。

No.13
2017.Jan.



〈地域〉と〈大学〉をつなぐ
経験値教育プログラム



Newsletter

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
地域連携推進機構
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1
TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523
E-mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



みんなの尼崎大学キックオフフォーラム

みんなの尼崎大学はじまるの会！

平成28年11月26日（土）に、みんなの尼崎大学キックオフフォーラム「みんなの尼崎大学はじまるの会！」が本学で行われました。主催は尼崎市で、本学は共催として参画しました。市民の主体的な学習や活動を支援し、「学び」を通して地域を支える人材が育まれる環境を創ることを目指す取組で、「学び」に関わる人たちの連携促進のための場づくりや「学び」の情報を一元化したウェブサイトの構築のほか、市民が教え、学びあう「みんなのサマーセミナー」等を実現化してきています。今回はより多くの方々に取組の趣旨や目的を知っていただくこと、市民や「学び」に関わる各主体、行政がともに「まちづくりに生きる学び」について考えることを目的としたフォーラムです。

フォーラムは2日間、11月26日（土）は園田学園女子大学を会場として、27日（日）は中央支所（開明庁舎）を会場として開催され、延べ225人の尼崎市内外の方々に来ていただきました。



村山保夫尼崎市副市長から趣旨説明があり、川島明子園田学園女子大学長から教授から会場挨拶、基調講演では稲村和美尼崎市長へと進みました。分科会1では、学びをきっかけとした学生・生徒と地域のかかわりについて、地域の取組の市民周知と尼崎市内外の取組。分科会2では、事業者による「学び」をきっかけとした地域や子ども、若者との関わり方。分科会3では、官民協働事例をもとに地域や社会に関わるきっかけとしての「学びの場づくり」。分科会4は、全国のコミュニティ・カレッジの事例をもとに、その効用や課題、まちと学びの関係性。分科会5では、知識や経験を生かすこと、誰かと共有することの意味、そのための「場」の事例をもとにそこから生まれるコト。などが活発に議論されました。最後に村山尼崎市副市長から挨拶があり、第一日目は終了。第2日目は、クロストークによる前日の振り返りと情報共有。そして「みんなの尼崎大学」の考察とこれからのについて話し合わせ、稲村和美尼崎市長の挨拶ですべてのプログラムが終了しました。

期間中、牧野篤東京大学大学院教育学研究科教授で中央教育審議会生涯学習分科会臨時委員、伊藤学司文部科学省幼児教育課長、文部科学省から出向の上田真弓兵庫教育大学准教授、木下巨一長野県飯田市民館副館長、佐藤智子東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授、毛受芳高一般社団法人アスバシ教育基金代表理事、大江篤園田学園女子大学人間教育学部教授、八木信一九州大学大学院准教授、船木成記尼崎市顧問で㈱博報堂ディレクター、の皆様方にご登壇、ご協力いただきました。

平成29年度

地域志向教育研究報告会

平成29年3月4日（土）

12:30～17:00

園田学園女子大学

3号館2階 321教室 (AVホール)

お申込みは地域連携推進機構ホームページより
<http://www.sonoda-u.ac.jp/chiiki/>

参加
無料

お問い合わせは下記まで

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
地域連携推進機構

TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523

Mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp

地域志向科目「つながりプロジェクト⑤」

『健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について』

このプロジェクトは尼崎市内にある、食を通しての健康作りを推進している店舗、“食の健康協力店”へ、学生が栄養に関するかわりと働きかけを行なっています。

先行研究では、“食の健康協力店”からのニーズを調べ、今年度は、学生がそのニーズに対応出来る店舗を、尼崎市地域ごとの基幹店と定め、活動の輪を広げていくプログラムの立案に取りかかりました。

◆現状把握から開始

尼崎市内各地区にどれぐらいの“食の健康協力店”が、点在しているのかをマップ上に落とし込み、基幹店を抽出しました。

◆取り組みの紹介

1. 学生が店舗に出向き、事前に知り得た要望と各店舗の特徴を目視して、基幹店で提供されている一押しメニューの食材を購入後、秤で分量測定、栄養価計算を行いました。

2. 栄養価計算結果の報告書、並びにリーフレット作成などを行いました。

3. 不足しがちな栄養素についての指導用パンフレット作成などを行いました。

◆地区別、基幹店の栄養価計算を実施した一押しメニュー

- ①立花地区：餃子の王将では、定番料理である、あんかけチャーハンと餃子
- ②中央地区：ダイニングキッチン大浜では、定番料理である元祖珍珍鍋
- ③武庫地区：イタリアンレストランエマーブルでは、ミートクリームパスタとサラダ・パン付き
- ④小田地区：モスバーガーでは、人気のテリヤキバーガー・オーガニックにこだわったハンバーガー
- ⑤立花地区：老舗の松葉寿司では、散らし寿司、にぎり寿司、上巻き寿司など

◆まとめとして

今回の栄養価計算から学生達は、分析した献立の特異性が見えてくるはず。いつ？どんな時に食べるのが良いのか？なにと一緒に食べれば良いのか？などを考える場になったはず。学生は“食の健康協力店”のパートナーとして具体的な提案を行い共に成長していける機会にしていきたいと思えます。

◆今後の展開として

《無から形あるものへの挑戦》をしていきます！



あんかけチャーハン



元祖珍珍鍋



ミートクリームパスタ



テリヤキバーガー



ちらし、にぎり、上巻き寿司

本学学生が考案したヘルシーメニューが、餃子の王将立花店で登場する予定です。ご期待ください。

つながりプロジェクト⑤：餅美知子 松葉真

地域志向科目「つながりプロジェクト⑱」

『あまっこキャリア教育プログラムの開発』

この授業では、先生方や地域の方々と協力しながら、小学校におけるキャリア教育プログラムを考えていきます。地域の子供たちとその育ちを支える方々との出会いの中で、これからの社会や地域を担う子供たちにつけたい力を考えるとともに、自分たち学生に担える役割を考えます。

前期は、キャリア教育の基本的な考え方を学びながら、尼崎市の教育に携わっている様々な方と出会い、そのビジョンや取組への理解を深めました。特に、NPOでキャリア教育コーディネータ

ーを務めている方をゲストにお招きし、コーディネーターのプチ体験をしたこと（写真左）や、授業づくりや授業実施のトライアルとして、「第2回みんなのセマナーセミナー」に出講し、自分達が‘センセイ’として授業を行ったことが、大きな経験になったようです。

後期は、実際に授業を行う小学校で先生方や地域の方々へのヒアリングを行ったり（写真右）、授業の企画、調整及び準備を行ったりしています。地域の方々とゲスト講師としてお招きし、その生きがいや働きがいを語ってもらう、という授業を企画しており、現在は、1月に控えた授業当日に向け、ゲスト講師との打合せ、教材作成のためのゲスト講師の職場取材などを行っています。

この授業を通じ、学生自身のキャリア（人生や生き方）や、そこにおける人、地域や社会とのつながりについても、振り返ったり見通しを持ったりすることにつながればと考えています。

つながりプロジェクト⑱ 担当：上田真弓



大学生による地域連携推進支援事業

『阪神つながり交流祭2016』

本学において平成28年12月3日（土）13:00にスタートしたつながり交流祭は、「大学生による地域連携推進支援事業」の活動報告をはじめ、大学地域連携による地域活性化に取り組む実践活動の報告が行われ、また実践活動に取り組む大学・大学生と地域活動団体等との直接の出会いの場となる交流会が開催されました。

地域連携推進支援事業関係者、NPO、地域活動団体等や大学関係者、学生等約150人の参加がありました。

事例発表では、「子どもの生活体験と子育て支援」と題して園田学園女子大学 児童教育学科の学生が、「地域で自分らしく暮らすための高齢者支援プロジェクト」を園田学園女子大学 人間看護学科の学生が発表をしました。

関西学院大学の学生からは地域資源を活用した「地域密着型生活支援」の拠点づくり事業について、団地・大学交流プロジェクト「浜甲カンタービレ」については武庫川女子大学の学生からそれぞれ発表がありました。NPO法人コミュニティ事業支援ネットの運営する阪神まち大学の西宮ブランドプロモーションコース、・ソーシャルビジネス育成コース、商店街プロジェクトコースに参加している阪神間の大学生からは、それぞれのテーマに沿った発表が行われ、またサンモール武庫元町商店街活性化提案事業については(公財) 尼崎地域産業活性化機構から、関西学院大学の学生からは甲子園口商店街活性化事業について発表がありました。

ラーニングコモンズで行われたブースセッションでは、出演大学・団体の大学生による地域連携活動内容のポスター展示と一般参加者も含めた意見交換が行われました。

テーマ別分科会では、「高齢者対策と地域福祉」「まちづくり・地域づくり」「商店街活性化」の3つのテーマに分かれ、全員参加によるディスカッションを行いました。発表を行わない学

生や一般参加者等も参加し、事例発表の内容についてさらに討議を深めることとなりました。

各グループのリーダーがまとめを発表し、各テーマに精通した関西学院大学大熊准教授、本学の大江教授、久留島地域連携推進機構特別研究員、柏原地域連携推進機構TAのアドバイザーから助言を以下の通りいただきました。「地域での活動は、何をやるかではなく、組織力、結束力をもって生き残ることにすべてをかけるという段階になっている。」「地域の課題は、一つ分野で解決できるものではないため、将来社会に出た際に他職種間連携が重要である。」など他の分野と協働するためにも、大学で学んでいる学問領域をしっかりと学修してほしいという指摘があった。

